



# 高温障害に注意を！！

管内の播種作業は昨年と比べ若干遅めの進捗状況となっています。出芽についても順調で播種後5～6日程度で出芽揃いしているハウスが多く順調な生育となっておりますが、4月17日未明からの暴風により、西部地区を中心に管内でも大きな被害がでております。被害に遭われました方におかれましては、心より、お見舞い申し上げます。



播種後の管理についてですが、気温が低くても日射量が多い場合はハウス内の温度が急激に上がる事がありますので、ハウス内の温度を急激に上昇させないように、開閉管理をお願いいたします。新しい屋根ビニールを使用している場合については、温度が急激に上がりやすいので遮光ネット等の対策をお勧めします。

## ◆ 今後の育苗管理について

◎かん水は、朝又は午前中にたっぷり行き、水まきの回数を少なくして下さい。(1日に何回もかん水すると根の生育に悪影響)

◎苗質をよくするために1.5葉期を過ぎたらかん水後の露払いをお願いします。(塩ビのパイプやイボ竹等で)

### <温度管理について>

区分	稚 苗 	中 苗 
緑化期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中…20～25℃</li> <li>・夜間…10～12℃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中…25℃以下</li> <li>・夜間…5℃以上</li> </ul>
2.5葉期まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中 … 15～20℃</li> <li>・夜間 … 5℃以上</li> <li>・田植7日前は昼夜換気</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中 … 15～20℃</li> <li>・夜間 … 5℃以上</li> </ul>
3.5葉期まで		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に寒くないかぎり昼夜換気</li> </ul>

◎追肥の目安および量について(ロング入り肥料使用のかたについては、基本的には追肥は必要ありません)。

○追肥は稚苗で1.5葉期、中苗で2葉期と3葉期の2回を目安とします。

#### ・液肥2号を使用の場合(5ℓで6kg入り)

液肥2号については、1箱あたり水500ccに液肥10ccを希釈して施用します。施用後の水洗いの必要はありません。 1本(5L)で600枚分

#### ・ポット肥料を使用の場合

ポット肥料については、1箱あたり水500ccに肥料6.7gを希釈して施用します。施用後の水洗いの必要はありません。 1袋(1kg)で150枚分

#### ・硫安を使用の場合

硫安については、1箱あたり水500ccに硫安5gを溶かし施用します。葉焼けをおこさせないため、施用後の散水による水洗いを必ず行って下さい。

◆ 耕起・代掻き

◎耕起は、稲の順調な生育に必要な**養分吸収ができる根域(目標15cm以上)**が望ましいとされており、できるだけ耕深の確保をお願いいたします。

◎代掻きは、作土の**透水性を維持させるため過度に練りこまず、田面の均一**に留意します。深耕の効果は、透水を伴って初めて期待でき、透水性は20～30mm/日の減水深が目標です。

※耕起・代掻きが不十分であると、前作の稲ワラが浮遊し田植機の植付精度を低下させたり除草剤の効果が劣ったり薬害が生ずる(田面の高低差が大きい)場合があるので注意する。

◆ 適期田植えについて

◎田植え作業については、田植え後の活着を考慮し**平均気温が稚苗で13℃以上、中苗で14℃以上**の日を選び行って下さい。悪天候時、特に風の強い日や雨の日に作業を行うと、その後に代枯れ等の被害が出るので見合わせるようにして下さい。

◎植え付けについては、**m<sup>2</sup>あたり21～22株(坪当たり70株前後)、本数は3～4本程度**を目安とします。また、極端な深植えは分けつの遅れにつながり、逆に極端な浅植えは、除草剤による薬害の原因にもなりますので、**2～2.5cmを目安**として植え付けします。

◆ こぼれ糞対策

◎代かき作業についてですが、前年のこぼれ糞による発生を減らすために2回実施して下さい。

1回目の代かき終了後**7日～10日**くらい間を開けて2回目の代かきを行います。その後、間を開けずに田植え作業を行い、直後に初期剤(ソルネット粒剤、エリジャン乳剤のプレチラクロール入りの剤)を使用し田植**10日～15日後**に一発処理剤で防除願います。

◎水田に使用する本田施用剤については、周辺環境への影響に配慮し**散布後7日間**は落水、かけ流しは絶対にしないで下さい。

◎**ecoらいす栽培**については、**初期剤の移植前使用は認められません**のでご注意願います。

◆ 田植え前の箱処理剤による葉いもち・初期害虫防除

★薬剤により使用時期や適応する病害虫が異なるので注意して下さい。

薬剤名	使用時期	1箱あたり散布量	対象病害虫
ツインターボ箱粒剤08	播種前～移植当日	50g	いもち病、イネトロオイムシ、イネミスゾウムシ、ウンカ類
ブイゲットフェルテラ粒剤	緑化期～移植当日	50g	いもち病、イネトロオイムシ、イネミスゾウムシ、 <b>フタオビコヤガ</b> 、 <b>コブノメイガ</b> 、 <b>イネヒメハモグリハエ</b>
Dr. オリゼフェルテラ粒剤	緑化期～移植当日	50g	いもち病、 <b>フタオビコヤガ</b> 、イネトロオイムシ、イネミスゾウムシ、 <b>イネヒメハモグリハエ</b>
ルーチンアドスピノ箱粒剤	播種前～移植当日	50g	いもち病、 <b>フタオビコヤガ</b> 、イネトロオイムシ、イネミスゾウムシ、 <b>イネヒメハモグリハエ</b>

※箱粒剤を散布する際は、除草剤等の取り違いがないように、再度ラベルを確認して下さい。

(注意)箱処理剤を移植前に使用する場合は、ハウス内土壌への残留リスクを軽減させるため育苗ハウスの外で使用する。